

令和5年度

高岡第一学園幼稚園教諭・保育士養成所 自己評価報告

1. 実施方法

自己評価表は『専修学校における学校評価ガイドライン』(平成25年3月)をもとに作成し、全職員によってそれぞれの項目について点検、評価を行った。評価は、「1(不適切)～4(適切)」の4段階評価とし、併せて可能な限り根拠や課題を明示するように努めた。

2. 自己評価の項目と内容

自己評価は、次の10を大項目として、質問・回答形式で行った。

- | | | |
|---------------|---------|-----------|
| (1)教育理念・目標 | (2)学校運営 | (3)教育活動 |
| (4)教育成果 | (5)学生支援 | (6)教育環境 |
| (7)学生募集 | (8)財務 | (9)法令等の遵守 |
| (10)社会貢献・地域連携 | | |

3. 自己評価結果 総括

(1)教育理念・目標

教育理念は高岡第一学園の建学の精神に掲げており、学園全体で志しているものである。学校の教育目標は、建学の精神をもとに定められている。これらの教育理念・目標について、教職員は熟知し、新入生オリエンテーションを始めとして折に触れて学生にも伝えている。また、ホームページや学校案内にも記載している。

(2)学校運営

年度初めに事業計画の策定を行ったうえで、定期的に各運営会議(教職員会議・成績会議等)や日々の朝礼等を通じ、学校運営の進捗状況や課題などを全職員で共有している。

新型コロナ5類移行に伴い学校運営に関してはほぼ平常に戻った。ただ、学生数の減少により行事の一部はコロナ禍前と同じに戻すことはできず内容を見直して実施することになった。

情報公開については、主にHPで行っているが、若い世代でSNSが普及していることもあり活用を検討している。

(3)教育活動

教育課程および授業時間数、学則は変更や追加などがある場合に所管の富山県に提出し、承認を得ている。音楽に関する単位の減少による学生の音楽的技術の低下は課題の一つである。

実習については、新型コロナ5類移行により4年ぶりに制限のない形で実施することができた。実習の中止や延期、一部実施等による学生の負担がなく、スムーズに現場と連携できた。

学習成果の発表については、小規模校ではあるが、幼児教育の学びを発表する場を多く設け、魅力ある学校づくりに努めている。幼教祭を昨年同様、附属園の子ども達を招待して実施した。子どもと学生の交流に特化した内容をこれからのスタンダードな形としていきたい。また、同学園の高岡法科大学祭にも参加し学生の保育技術の向上と、学生生活の充実に役立てた。

(4)教育成果

就職指導は履歴書の作成、面接、実技、小論文・作文指導など、試験内容に応じて個別に丁寧に行っている。資格取得率は高く、保育・福祉関連への職場で資格を活かして働く学生が多い。

退学率・休学率は高く、特に1年生の退学者が目立つ。コロナ禍を経て、人間関係の構築につまずく学生が多く見受けられる。対応策として相談窓口を設置したり、少人数校のメリットを生かしてすべての学生に全教員が面談する機会を設けたりし、相談しやすく通いやすい学校になるように取り組んできた。休学者については定期的に連絡をとり、復学を後押しするようサポートしてきた。一人一人の学生があきらめずに学び続けられるように寄り添ってきたい。

卒業生の活躍状況は一部実習巡回等で確認できる。また、卒業後間もない学生については、気になることがあれば就職先と情報共有しながら連携し、早期離職を防ぐように努めている。

(5)学生支援

就職支援に関しては、担任中心に対応しているが、キャリアコンサルタント、職業教育・キャリアサポーターの有資格者がおり、学生一人一人にきめ細かく支援する体制が整っている。また学生相談の体制については、今年度「学生相談窓口」を設置するとともに、全教員が1年生全員と面談する機会を作り、教職員一丸となって相談しやすい環境づくりに取り組んできた。

学生の健康管理は新型コロナの5類移行後も毎朝の検温や健康状態チェックを継続することで、学生が自分自身の健康について意識を持ち続けられるようにしている。

保護者との連携については、行事で学校の教育活動を見てもらったり、三者面談を通して学生の学習状況や就職への理解を深めてもらったりしている。

また、R6.1.1の能登半島地震を受けてこれまでの災害発生時の指導が不十分ではないか、という課題があり、今後どのようにしていくかを検討しなければならない。

(6)教育環境

専門教育に必要な設備・施設は十分に整えられているが老朽化しており、必要な修繕を繰り返すことで対応している。今年度は学校内に必要以上にあった机、椅子を処分し、教室が使いやすいように環境を整えた。

実習は、附属園（幼稚園3園、認定こども園2園、保育園1園）と連携を取りながら進めていることが他校にはないメリットである。附属園以外で行う保育実習においても、万が一実習を継続できない事案が生じた場合に、附属園で再実習するチャンスを学生に与えることができ、実習環境には非常に恵まれている。

(7)学生募集

学生数の減少を食い止めることが出来ず、8年連続重点目標に「学生募集」を掲げ取り組んでいる。「高校生のための幼児教育体験講座」はコロナ禍前の内容に戻し、附属園と連携し保育体験もできる形にした。また今年度初めて12月に3回目を行った。業者が主催している学校説明会に赴く回数を増やし、学生獲得に向けてできることは積極的に取り組んできた。コロナで十分できていなかった募集活動が今年度はできたことはよかったが、年度内に成果として

見えてこないのは残念である。今後は学園の高岡第一高校との連携を強化していきたい。
全体的には定員充足率は低下している。引き続き課題としていかねばならない。

(8)財務

学校の財務基盤は入学者数が伸びないことに加え退学者がいることでより厳しくなっている。

予算・収支計画は毎年本学園の理事会にて予算報告を行い、理事の承認を受けている。また、財務については学園本部でとりまとめ、会計監査が適正に行われている。財務情報は HP で公開し誰でも閲覧できる環境を整えている。

(9)法令等の遵守

設置や運営に関する法令は遵守しており、厚労省、文科省、所管の富山県総合政策局の指導を受けながら適正に運営がなされている。

自己評価は H26 年度より毎年実施し、問題点を話し合い改善に向けて取り組んでいる。ホームページでの公開も H27 年 4 月よりしている。また、H28 年より学校関係者評価も毎年実施し、その内容もホームページ上で公開している。

(10) 社会貢献・地域連携

社会貢献としては、高岡法科大学祭で本所学生会が赤い羽根共同募金の募金活動をした。教員も教育資源としてそれぞれの専門分野を活かし、地域や社会に貢献している。

また高校生、中学生、社会人、現役保育者、それぞれに向けての講座・講習会を開催し、地域や社会へ貢献している。現役保育者に向けては、附属園の保育者に向けて幼児教育講座・講習会を開講した。

地域連携という点からは、5 月に新型コロナが 5 類に移行して各所のボランティア依頼が戻ってきており、積極的に推奨してきた。高岡市立図書館での読み聞かせボランティアは多くの学生が参加し、予定通り 4 回実施した。今後も特別講義の依頼を引き受けたり学生のボランティアを推奨したりと地域に開かれた学校を目指していきたい。

4. 重点目標について

①学生募集

【一般学生の募集】

- ・ 5月上旬：県内高等学校への学生募集（昨年度5月下旬～6月上旬）
- ・ 8月下旬～9月上旬：県内高校2回目の訪問
隣県の高等学校への学生募集（糸魚川・金沢・七尾・津幡・飛騨・高山方面 計11校）
- ・ 11月下旬：県内高校3回目の訪問
（昨年度は一部の高校だったが、今年度は12月の幼児教育体験講座のチラシを持参するために広く訪問した）
- ・ 出前講座開催チラシを配布(5月) → 依頼校 1校「第一学院高等学校」(1/24)
- ・ 学校案内のリニューアル
- ・ 専各連主催の学校説明会の参加 (5/18)
- ・ 業者主催の学校説明会の参加 (16回)
（「さんぽう」「チエルコミュニケーションブリッジ」に加え「キッズコーポレーション」に初参入）
- ・ 附属園の未就園児用のチラシに高校生のための幼児教育体験講座、社会人のためのオープンスクールのお知らせ広告掲載 (4月)
- ・ 高校生のための幼児教育体験講座開催
(7/26 56名参加 8/22 39名参加 12/23 18名参加)
- ・ 高校生のための幼児教育体験講座 学校紹介展示
(学生の作品、教材、授業ポスター、幼教祭ドキュメンテーション)
- ・ 専各連「職業選択のための体験講座」事業への参加 (7/27)
- ・ 7月：北日本新聞「オープンキャンパス特集」掲載

【職業訓練生の募集】

- ・ 社会人の募集チラシを市役所・支援センターに配布
- ・ 高岡市広報に「社会人のためのオープンスクール」の広告掲載 (12月号)
- ・ 12月 北日本新聞社ゼロニィに「社会人のためのオープンスクール」の広告掲載
- ・ 附属園園だよりに「社会人のためのオープンスクール」の広告掲載 (12月号)
- ・ 1/20 社会人のためのオープンスクール実施 (8名参加 内1名は高校生)
- ・ 2月 ハローワーク主催の職業訓練説明会に参加
(富山、高岡、砺波、氷見のみ1、2月回)
- ・ 近隣の商業施設に「社会人のためのオープンスクール」のポスター掲示

【その他】

- ・ マスコミ取材依頼と掲載結果
①幼教祭：北日本新聞、富山新聞 ②高校生のための～：北日本新聞
③大学祭：北日本新聞 富山新聞 ④社会人のための～：北日本新聞 富山新聞
⑤土曜おはなし会：× ⑥オペレッタ：× ⑦卒業記念演奏会：×
- ・ 学校見学者の受け入れ (3名)
- ・ R6年度 高校訪問用の卒業生写真付き就職報告カード作成中

学生募集に一定の効果がある「高校生のための幼児教育体験講座」はコロナ禍で十分にできていなかったが、今年度はコロナ5類移行に伴い、7、8月ともに午前中の附属園の保育体験も含めて予定通り実施することができた。また、今年度新たに12月にも実施したところ、1、2年生中心に少人数ながら意欲的な参加者が集まった。業者主催の学校説明会への参加回数も増やし、地道に学生の確保に取り組んでいる。

社会人に向けては「社会人のためのオープンスクール」の開催が7年目を迎えたが、毎年参加者が職業訓練生の受験に高い確率でつながっており手応えを感じている。

しかし全体的には学生数の増加につながっておらず、厳しい状況が続いている。保育分野希望の高校生が減少しているようだが、今後も引き続きさまざまなアプローチで学生募集を行い成果につなげていきたい。また選ばれる学校になるような魅力のある学校づくりをしていきたい。

②学生のソーシャルスキル向上を図る

【教員とのコミュニケーションを通して】

- ・レッツ カンバ！（10月～2月）

【学生同士の関わりやコミュニケーションを通して】

- ・行事の準備、練習
（新入生歓迎会・体験講座・幼教祭・大学祭・クリスマス会・お聞かせください会、異年齢交流会、実習報告会・オペレッタ・幕間）
- ・高岡市立図書館おはなし会の練習

【社会人としてのマナー指導、生活指導を通して】

- ・実習指導での電話応対、訪問の仕方、実習マナーについての指導
- ・提出物の期日厳守、私語を慎むこと、身なり、挨拶の指導
- ・欠席・遅刻の連絡の指導
- ・職員室の入室の仕方の指導
- ・掃除巡回、ワックス指導

SNSの普及等により学生の対人関係能力が低下していることを危惧していたが、コロナ禍を経てさらに顕著になった。学生間での人間関係のつまずきが、即休学、退学につながっていき、学びが継続できなくなってしまうことが増えている。

ソーシャルスキルの向上を目指し、今年度「レッツ カンバ！」という取り組みを行った。全1年生がスタンプラリーカードを持ち、全職員と対話することで自分の思いを伝える経験をした。様々な教員と気軽に語り合う機会を学生も好意的に受け止めていたように思われる。また、教員・学生それぞれがお互いをよく知ることができ、相談しやすい関係づくり、安心できる学校づくりにもつながったのではないだろうか。

学生間でのソーシャルスキルは行事の準備や練習を通して二年間で身につけていくところが多い。実習指導や実際の実習もフォーマルな場面でのソーシャルスキルを身に付けるための大切な機会である。しかし1年生は、様々な面で経験不足な上、信頼関係が十分築かれていないこともあって、人間関係がぎくしゃくしてしまいがちである。そのようなところを教員がフォローしつつ、二年間を通してしっかり身に付けていけるよう根気強く関わっていきたい。